

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	競輪場（職員）	単価の動き	・3か月前と比較して、1日当たりの入場者数は4.5%減、同売上高は35%増、同売上単価は33%の大幅増加となった。増加要因は年に1回の記念競輪とハイグレードのG1競輪の開催に加え、ボーナス支給が重なったためである。
	やや良く なっている	家電量販店（店長）	お客様の様子	・新築、改築の際のまとめ買いや高級家電、高額AV商品に興味を示す客が目立つようになってきた。
		タクシー運転手	来客数の動き	・平日は昼、夜とも人出が少なく、閑散としていたが、大型の祭事と関連行事の開催日に加え、週末や雨の日にはタクシー利用が多かった。
	変わらない	スーパー（店長）	来客数の動き	・ここ1年間は来客数が伸びていたが、今月は勢いが止まった。大型ショッピングセンターの特別招待会、競合店の周年記念セールなど、他店の打ち出し方が強化されたことが痛手となっている。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・食品部門やホームセンターの状況を見ると、来客数が前年を下回る店舗が増加している。特に新たな競合店が出店したわけではないが、来客数の減少により売上が減っている。客があまり買い回りをしなくなった結果と思われる。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・6月は週末の天候が悪く、周辺施設のイベント中止などの影響があったものの、来客数、売上とも前年比1%減にとどまった。また、主力商品の中食が同6%減少したが、逆に高温のためアイスクリームなどの冷やし商材が同16%増となった。全体の利益は利幅の薄いたばこの売上が増加した影響もあり、前年比較で大幅なマイナスとなった。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・商店街の集客は相変わらず少なく、セールを前倒しせざるを得なくなっている。
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・全体の売上は前年をやや下回る状況であり、商品によって好・不調がはっきりしている。エアコンは気温が高いため2けた増となったが、好調に推移していた薄型大画面テレビは前年の大幅増の反動で頭打ち状態である。パソコンは継続的に不振が続いている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・テレビ、パソコン、冷蔵庫などの大型家電商品の販売量は前年を下回り、大型テレビなどの平均単価も3、4万円低下している。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・フェアの仕掛けや新型限定車などの目玉商品により、客に動きが出てきたが、肝心の契約に対する態度はますます慎重になっている。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・6月の新車の受注状況は当初期待した水準には達していない。新型の量販車種を発売したが、来客数では前年の水準を超えているものの、期待値に達せず、ユーザーの懐は固い。中古車の受注状況も盛り上がり欠け、高額車の動きも鈍い。
		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・新型の量販車種が発売されたため、販売台数は計画に近づきつつあるが、新型車効果というほどではない。最近のガソリン価格の高騰も当業界にとっては大変な逆風である。
		自動車備品販売店（従業員）	来客数の動き	・販促活動を実施しても、なかなか来客数の増加につながらない。客の反応が悪く、購買意欲が高まっていない。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	単価の動き	・依然としてガソリンスタンドは、過当競争により適正利益が確保できない。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・駅前に飲食ゾーンがオープンし、客が新たな集客施設に流れる傾向がある。パートやアルバイトの絶対数の不足も重なり、売上、来客数は思うように伸びず、横ばい状態が続いている。
観光型旅館（スタッフ）		来客数の動き	・能登半島地震の風評被害はまだ続いており、6月における予約状況は前年比20%以上落ち込んでいる。	
都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・客室稼働率の低下とレストラン部門の利用客減少を、一般宴会の受注件数の増加でカバーしている。		

		住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・高額商品の割合の高い当社にとって、市場は非常に厳しい状況である。客の説得に長時間を要し、来場者数も少ないことから事業規模を縮小する必要がある。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・住宅フェアなどの集客は非常によいが、客の求める価格帯は低く、競争は激しくなっている。 ・分譲住宅の販売が各社とも遅れ気味である。
やや悪くなっている		一般小売店〔鮮魚〕 (従業員)	お客様の様子	・能登半島地震から3か月が経過したが、依然として観光客の入込は低迷しており、温泉地はもとより市内の飲食・料理店でも暇な状態が続いている。
		百貨店(売場主任)	来客数の動き	・平日の午後5時以降の来客数が大幅に減少している。特に30代の客の落ち込みが激しい。また、年金問題からか、70代の客も若干減少気味である。
		百貨店(営業担当)	お客様の様子	・当店の重点客層である団塊の世代から上の人たちにとって、年金問題や牛肉偽装事件などが大きな不安材料となっている。このため、消費マインドが低下傾向にあり、「無駄な物は買わない」「購入に当たってはより吟味する」など、財布のひもはますます固くなっている。
		その他専門店〔医薬品〕 (営業担当)	来客数の動き	・3か月前までは、既存店の来客数は前年比103%程度で推移していたが、ここへ来て同100%と低下している。
		高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・能登半島地震の発生後、官公庁関係のお酒を伴う宴席がキャンセルになっていたが、今月からようやく動きが出てきた。しかし、県外からの旅行客数が例年の水準を大きく割っている。
		スナック(経営者)	来客数の動き	・来客数はめっきり少なくなり、前年同月の8割程度であった。客にとって住民税の増額が心理的に大きなマイナス要因となっている。中小企業、個人事業主からは「売掛があっても回収がままならず、金回りが悪くなっている」という話が聞かれる。
		都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・売上は前年比、前月比とも減少しているが、特にレストラン部門が顕著である。
		旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・夏商戦において直近の予約が低下している。特に、宿泊の伸びが悪い。
		通信会社(役員)	販売量の動き	・ケーブルテレビ業界では、県外民放の地上デジタル放送が見られないという全国的な課題(一部の県を除く)があり、デジタル契約が低調に推移している一因となっている。
		住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・住宅ローン金利が6月に上昇したが、その前に客の一部が金融機関へ駆け込んだため、今月は客の動きが鈍かった。
		住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・新設したローコスト住宅展示場への来場者が多く見られたが、当社が狙っている客層の来場は減少傾向に歯止めがかからない。
悪くなっている		商店街(代表者)	来客数の動き	・急に気候が暑くなり、夏物衣料などに期待感が強まったが、逆に暑さのため人出が減少し、売上増につながらなかった。
		百貨店(営業担当)	販売量の動き	・来店しても、商品を購入せずに帰る客が大変多い。セール前の下見という理由があるかもしれない。また、今の時期にすぐ使用する商品では、かなり吟味して購入している様子がうかがえる。
		スーパー(店長)	お客様の様子	・客の価格に対する態度は極めて厳しい。菓子や雑貨はドラッグストアで購入するなどの行動パターンが見受けられる。
		コンビニ(経営者)	来客数の動き	・周辺の現場工事が終了し、近くに競合店がオープンしたことにより、来客数が減少している。また価格に敏感な客がコンビニを敬遠している傾向も見られる。
		タクシー運転手	販売量の動き	・新規タクシー業者の増車により、供給過剰になっている。夜の繁華街の客入りも少なく、売上は前年比15%減少している。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	電気機械器具製造業(経理担当)	受注量や販売量の動き	・4月後半から徐々に受注が増え始めており、7月もかなりの受注が入る見込みである。新旧の製品共に生産増となっている。
	変わらない	食料品製造業(企画担当)	受注量や販売量の動き	・高付加価値商材の販売量は前年同月比で伸長しているが、ここ3か月間では変化が見られない。

		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注はなんとか確保しているものの、力強さが感じられない。消費動向も盛り上がり欠けている。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・薄地の婦人衣料の受注が増加している。
		精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・高付加価値商品開発への注力もあり、受注量自体は多少増えているが、それに伴う1品当たりの加工費も増加傾向にあり、収益的には横ばい状態である。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・取引先企業の収益は全体的に良くなっているが、悪化企業も見られる。
		税理士（所長）	受注量や販売量の動き	・最近の企業の決算を見ると、価格面など利幅の厳しい部分もあるが、売上高は徐々に増加し、営業も活発化している。
	やや悪くなっている	一般機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・受注の決まるまでの時間が長くなっている。
		輸送業（配車担当）	取引先の様子	・軽油等の高騰によるコスト高から利益が出にくくなっている。物量においても客からの出し渋りが見られる。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・当社の受注量は前年比横ばいであるが、競合他社ではややマイナスとなっている。
	悪くなっている	建設業（経営者）	競争相手の様子	・公共事業におけるダンピングは激しさを増しており、予定価格の60%台、70%台での落札が普通になってきたが、ついに10%を切る落札が現れた。このような超低価格での受注は自殺行為としか思われない。
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・9月にオープンする百貨店及びテナントから、販売職の求人の申込が多く来た。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・相変わらず、ユーザーのニーズに対応できる人材が不足し、応じきれない状況にある。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・事務系では一般事務の人材にやや余裕が見られるが、経理関係が不足している。
		職業安定所（職員）	採用者数の動き	・新規求人数は前年比で増加傾向にあるが、求職者数はここ数が月減少している。
	やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・1か月に8回のペースで求人誌を出していたが、1回に500件を超えていた求人社数が6月は400件台に落ち込むケースが多くなった。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・設計や技術職などの求人はあるが、人材不足やミスマッチで充足できない。求職者は事務系に偏っている。
悪くなっている	-	-	-	